

2009年 5月号 Mini-WAN

～三河港湾事務所だより～



○碧南市臨海公園オープン

3月28日、碧南市の臨海野球場に隣接するマンモスプール跡地に、新たに碧南市臨海公園がオープンしました。

臨海公園は、1.5ヘクタールの大芝生広場を中心に、公園のシンボルである高さ7mの「碧の山」や、音楽に合わせて水を吹出す大噴水などが設けられており、その周囲を1周490mのウォーキングコース等が囲むなど、大人から子供まで幅広く楽しむことができる施設となっています。



音と光で演出する大噴水



雨天でも楽しめるドーム広場

また、敷地内には雨天や夜間でも利用できるドームに覆われた多目的施設もあり、スポーツやイベントなどに使用できます。

GW中は天気もよく、家族連れで大変にぎわっていました。皆さんも公園でおもっきり体を動かしてみたいはいかがでしょうか。

○三河港振興会総会開催

4月30日、ライブポート豊橋（豊橋市神野ふ頭町）において、三河港振興会（会長佐原光一豊橋市長）の平成21年度定時総会が開催され、平成20年度の事業報告並びに平成21年度の事業計画（案）が承認されました。

開会挨拶として会長の佐原光一豊橋市長より、「100年に一度といわれる経済危機。豊橋港においてもハード・ソフト両面から様々な事業を積極的に展開し、景気回復時には他の港湾に先駆け、貨物量の増に繋げることができる仕組み作りが今まさに必要である。」と挨拶されました。続いて、杉田元司衆議院議員、大竹正人愛知県議会議員から祝辞を頂いた後、「これからの港湾整備について」というテーマで中部地方整備局富田英治副局長による講演が行われました。

講演の最後に、「今後の三河港における環境対策機能は？」との質問に、副局長は「干潟・浅場造成事業等実践していきたい。」と回答しました。今後三河港は、物流のみならず、環境と共生した港湾を目指していきます。



佐原光一豊橋市長



杉田元司衆議院議員

☆CONTENTS☆

■巻頭コラム

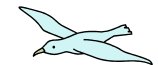
■最近のトピックス

- 「知多半島観光協議会」設立総会の開催
- 「みなとオアシス蒲郡」緊急時対応訓練の開催
- 赤羽根道の駅「ロコステーション」オープン
- 第27回 日間賀島さわやかジョギング大会
- 衣浦港振興会創立50周年記念式典
- 春の幡豆友引市
- 新たな干潟・浅場造成材による三河湾環境改善
- 碧南市臨海公園オープン
- 三河港振興会総会開催
- なるほど三河湾
- 三河港はオレンジジュース輸入基地



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘



今年の春は潮干狩りにはまっております、これまで4回行きました。3回は有料の潮干狩り場ですが、1回は一般開放という無料で行ける場所へ。場所は三河で、近くには、自動車を運搬する大きな船も見えるという三河港内ならではの風景。混雑する、という事前情報があったため、早起きし最干潮の3時間近く前に到着。既に始めている人がそれなりに。しかも、腰まで海につかり、深い場所で大量に採取するための器具を持った方々も多い。こちらはクマデ1本で、既に完全に装備負け。陸からアクセスできる場所から離れた場所には、小型船で来ている人も多数と、有料の潮干狩り場とはひと味違った雰囲気でした。



作業開始後、しばらくは全くの不発。場所を変えても苦戦続き。縄文時代の人はこういった生活だったのだろうかと思いを寄せつつ、時間はどんどん経過していきました。ちなみに、深い場所ではザクザク取れているようでした。

結局、当日の夕食分程度を収穫。アサリの他に、赤貝らしき貝もとれました。似た種類の貝があるそうなので、赤貝かどうか自信がありませんでしたが、刺身で食べたらいい味でした。

三河湾浄化のためには、アサリをとって食べることも効果があります（系外排出）。潮干狩りで、楽しく美味しく三河湾再生ができますので、皆様も是非お出かけ下さい。



★なるほど三河湾★

三河港はオレンジジュース輸入基地



皆さんは、普段、何気なく食べている食べ物、飲んでいる飲み物が、どこで生産され、どういった経路で皆さんの食卓まで運ばれているかご存じでしょうか？例えば、国産だと思われがちな蕎麦（そばの実）も、実は約8割は輸入（主に中国）に頼っており、日本各地の港で荷卸しされ、陸路をトラックで運ばれ、各地のそば屋さんで調理されます。輸入される食べ物のほとんどは、船を利用して大量に運ばれるため、消費者の皆さんへ安い輸送コストで安定的に届けることが大変重要です。



三河港で荷卸し中

三河港は、皆さんもご存じの通り、自動車の取扱に関しては世界の5大港の一つであるほど有名です。しかし、日本のオレンジジュース輸入の約5割を扱っていることは、あまり知られておりません。全国で年間7万8千トン（平成19年）の濃縮オレンジジュース果汁が輸入されており、その約9割はブラジルからです。大量輸送のため、容積を約7分の1まで濃縮し（なんと糖度66普段飲んで100%オレンジジュースの糖度は11前後）、マイナス10℃で保管され、約30日程度かけ、ブラジルから三河港に運ばれてきます。その後、ドラム缶詰めされ、日本各地に送られます。もしかしたら、皆さんが今飲んでいるオレンジジュースは三河港で荷卸されたものかもしれませんね。



日本各地へ出発！

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧ください。http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp ★

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル

お問い合わせ 0120-497-370

受付時間※/9:00～12:00と13:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)
※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局 三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3321 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>
E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

☆最近のトピックス☆

○「知多半島観光圏協議会」設立総会の開催

3月23日、半田市民交流センターにおいて「知多半島観光圏協議会」の設立総会が開催されました。本協議会は、知多半島内の観光地やものづくり、まち歩きの見どころ施設等の連携によって観光圏を形成し、その魅力の増進により国際競争力を高め、内外からの観光客の来訪及び滞在を促進することを目的に設立されたものです。今後、知多半島5市5町の関係者が協力して、約1年間をかけて「観光圏整備計画」や「観光圏整備実施計画」の策定検討が進められます。当事務所もオブザーバーとして協議会へ参加し、協力していく予定です。



会長の榊原半田市長のあいさつ

○「みなとオアシスがまごおり」緊急時対応訓練の開催



ヘリの離陸状況

3月23日、蒲郡市にある「みなとオアシスがまごおり」において、オアシスの防災機能の強化に向けた取り組みとして、ヘリコプターの離発着訓練が行われました。強い風が吹く天候で、コンディションは良くありませんでしたが、災害時の訓練として、多少の強い風でも対応可能であることが確認できました。離発着のみの訓練でしたが、今後のオアシス防災機能の強化に向け十分な成果があげられたものと思います。

今年度は、災害時の海・陸・空の連携に向けた訓練を検討中です。

※みなとオアシスとは、海浜、旅客船ターミナル、広場など、みなと周辺の施設やスペースを活用して、地域住民、商店街、漁協などの連携した取り組みにより、みなとを核としたまちづくりの促進、みなとの利用者の利便の向上及び災害時の人々の生活支援拠点の形成を目的とするものです。また、東海、東南海地震が懸念される中部地域では、防災のオアシスとしての機能も重視しています。

○赤羽根道の駅「ロコステーション」オープン

3月26日、田原市内で3番目となる道の駅「あかばねロコステーション」が同市赤羽根町にオープンしました。施設は国道42号沿いの赤羽根漁港と国内有数のサーフスポットの間に立地しており、地元漁港で揚がった海産物の加工品、野菜や果物などの農産物のほか、土産物売場、サーフショップやレストラン、地元ブランド豚を使ったファーストフード店が営業しています。この時期にはイチゴのソフトクリームも販売されており、「甘酸っぱくておいしい!」と店先に列ができる盛況ぶりです。そのほかにも地元でとれた農・海産物を安く販売しており、週末には多くの人でにぎわっています。



来場者でにぎわう駅内

また、4月19日には同駅に隣接する海岸で「第1回 AICHI SURF UNION」が開催され、多くのサーファーがしのぎを削りました。

○第27回 日間賀島さわやかジョギング大会

3月29日、南知多町の日間賀島において「第27回日間賀島さわやかジョギング大会」が開催されました。

大会当日は強風と厳しい寒さのなか、10km、5km、2kmと5kmウォーキングの部が開催され、過去最高の2,008名の皆さんが参加されました。



日間賀島は周囲約5.5kmで、10kmコースは日間賀島小学校をスタートし、東港・西港と2周、周回します。既に山桜も咲き始めていて、山桜と三河湾をながめながら島の自然を満喫することができました。

また昼食は大会実行委員会からタコ飯おにぎりが販売され、日間賀島の味覚も感じる事ができました。

本大会は順位を競うものではなく、自分のペースで走りきるものですので、スタートの様子(10kmの部) 次回は皆さんも日間賀島の自然を走りながら体感してみたいかがでしょうか。

○衣浦港振興会創立50周年記念式典

3月28日、衣浦港振興会創立50周年記念式典が、碧南市の衣浦グランドホテルにて、関係者が多数出席したなかで盛大に行われました。

衣浦港振興会は、衣浦港が重要港湾の指定を受けてから約2年後の昭和34年2月に地域商工会議所が発起人となり、衣浦港の振興と地域の産業経済の発展を目的として創立されました。

式典では、大村秀章衆議院議員、伊藤忠彦衆議院議員、富田英治中部地方整備局副局長より来賓祝辞をいただきました。続いて、元大分県知事で一村一品運動の生みの親でもあり、現在、日本港湾振興団体連合会会長の平松守彦様を講師として招き、「港湾力と地域力 ～衣浦港地域発展の方向～」というタイトルで、記念講演会が行われました。港湾力の向上のためには、船にとって魅力ある港、そして港背後地(特に農業)との連携が大切といった話の他、一村一品運動について現在でも世界中に広める運動が行われているという講演をしていただきました。

衣浦港は、明治32年に武豊港として開港し、昭和32年に衣浦港となり重要港湾の指定を受けました。一昨年に、重要港湾の指定50年を迎え、今年は開港110年を迎える大変歴史のある港です。平松会長も感心されていましたが、背後地には、200社を超える企業が進出しており、地域の活性化に大きく寄与することが期待される港でもあります。



式典の様子

○春の幡豆友引市



地元の産物が豊富な市

4月19日、NPO法人 幡豆三河湾ねつとが主催する物産市「春の幡豆友引市」が、幡豆町祐正寺の境内で開催されました。

物産市では、雑貨や古布など手作りの品物、三河湾で取れたエビなどを使ったせんべい(“幡豆せん”と呼ばれています)や幡豆産の豆みそが販売されていました。また、団子や焼きそば、地元で取れたイカをその場で焼いたものも販売されており、訪れたお客さんもおいしそうに頬張っていました。地元の方の手作りの品々があふれる、幡豆町の魅力満載の物産市だと感じました。次回は9月19日に予定されますので、是非いらしてみたいかがでしょうか。

○新たな干潟・浅場造成材による三河湾環境改善

様々な生物がいきづく豊かな海にするために干潟や浅場の造成が必要になります。当事務所では平成10年から16年に、三河湾の湾口にある中山水道航路の整備によって発生した浚渫砂を用いて、干潟・浅場を造成しました(シーブルー事業)。しかし、同事業の終了に伴い、浚渫砂が供給されなくなったため、新たな造成材が必要となりました。そのため、平成20年2月に浚渫土砂にスラグ(製鉄の際に発生する副産物)やダム堆積砂を混合した造成材で三河湾の三谷地区に浅場を造成し、干潟・浅場の造成材としての適性、海域への影響を把握するために、1年間、水質・底質・生物調査を行ってきました。

現時点までに、造成場所の水質・底質は周辺の海域と変わらないことが確認されました。また、生物の生息状況については、造成直後にはほとんど生物はいませんでした。徐々に底生動物(アサリ等)や魚類の生息・生育が見られるようになり、造成材による浅場でも生物の生息等が可能なことが確認され、三河湾の環境改善への効果が現れてきています。



5cmほどのハゼ科の魚



アサリの生貝

今後もこの調査を継続して効果を検証し、三河湾環境改善のために新たな造成材による干潟・浅場造成等の事業化に向けた取り組みを進めていきます。

